

令和6年度第2回防府警察署協議会会議録

開催日時	令和6年10月18日（金） 午前10時00分から午前11時50分までの間	
開催場所	防府警察署3階 講堂	
出席者	委員	塚原委員、藤村委員、東福委員、竹並委員、浅井委員、杉本委員、中司委員、佐戸委員、池永委員、室田委員 計10人
	警察	警察本部長、署長、副署長、主幹、警務課長、警察安全相談課長、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長 計12人
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 業務説明 2 少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進 3 交通死亡事故抑止対策の推進 	
<p>1 会長挨拶 委員の皆様には、お忙しいところ出席をいただき、感謝申し上げます。 本日は警察本部から熊坂本部長が出席されることとなった。 テーマについて意見を聞きながらまとめていくが、実り多い協議会とするため、ご協力をお願いします。</p> <p>2 署長挨拶 (省略)</p> <p>3 本部長挨拶 (省略)</p> <p>4 業務推進状況の説明（署長） 令和6年8月までの業務推進状況と推進計画について、以下の項目に沿って説明した。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 犯罪抑止対策の推進状況 (2) 悪質重要犯罪の徹底検挙 (3) 地域安全活動の推進 		

5 警察職員採用募集活動の報告（警務課長）

前回の諮問事項を踏まえた採用募集活動への取組状況について報告した。

6 諮問事項説明

- (1) 「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」について、以下の項目に沿ってパワーポイントで説明を行った。（生活安全課長）
 - ア 少年を取り巻く情勢
 - イ 少年の健全育成に携わる警察組織・職員とボランティア
 - ウ 少年が加害者にも被害者にもならないための対策
 - エ 諮問事項
- (2) 「交通死亡事故抑止対策の推進」について以下の項目に沿ってパワーポイントで説明を行った。（交通課長）
 - ア 交通死亡事故2件の概要
 - イ 県下の交通死亡事故の特徴
 - ウ 交通死亡事故抑止に向けた各種取組

7 協議

- (1) 「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」について
（委員）

子供は、保護者の教育や家庭環境の影響を受ける。加害者がいなければ被害者もないわけで、とにかく加害者にならないような家庭教育をするべきである。地域で子供たちの情報を共有し、地域全体で子供を育てる意識を持つとよいと思う。

（委員）

以前は、子供が悪いことをしたら、学校の先生や地域住民が叱っていたが、今は保護者がクレームをつけてくるので言えなくなっている。

（委員）

家庭教育、学校教育、社会教育、どれも重要ではあるが、その中でも特に家庭教育と社会教育の大切さをもう一度思い出す必要があるのではないか。

（委員）

家庭での教育が、すごく重要だと思っている。正しい指導を親がするためには、親も勉強が必要であり、親子で話し合うことが重要ではないか。

（委員）

少年は、夏休みを境に考え方が変わるように思うので、夏休み前にどのようにアプローチするかが重要ではないか。

また、子供がSNSで発信することにより、親が賠償責任を負うことがあると教える必要がある。

(委員)

親の価値観や考え方が子供に影響を及ぼすのは言うまでもないが、正しい価値観に触れる機会を用意することも重要だと思う。

非行に走ると自分の将来が破滅していくという実例を示し、自覚させることで行動が変わるのではないか。

(委員)

自治会長と防犯指導員をしているが、地区内での会話は高齢者の話題ばかりで、子供に注意が向いていない。防府市内の少年犯罪について、「防府市でこんなことがあった」「学校でこんなことをしている」等の情報を発信することで、「地域社会の大人が子供を守っていく」という意識が高まるのではないか。

(委員)

情報モラル教室のプレゼンについて、事前に生徒会に指導しておき、生徒会から全校生徒に教えるという生徒主導の形の方が、より伝わりやすいのではないか。

(委員)

何回も講習会を繰り返していくしかないと思う。説明にあったように、万引き防止のため学生と店舗内の死角を見つけ、カメラをどこに設置したらよいか検討するなど、実体験に基づいた講習は効果的だと思う。

(委員)

共稼ぎ家庭の増加など、社会構造の変化により、子供に目が行き届かない親もいると思うので、情報番組等での情報発信をお願いしたい。

少年安全サポーターについて、知識や経験が豊富な方々が長く携わっていただけるように配慮していただきたい。

(2) 「交通死亡事故抑止対策の推進」について

(委員)

毎日、散歩をしているが、交通ルールを守らない高齢者が多いと思う。高齢者は、横断歩道が近くにあったとしても、店舗に最も近いところを横切ることが多い。

高齢者の運転免許証の返納について、自ら早期に返納させることができれば、事故の抑止につながるのではないか。

(委員)

交通事故は、人が車を運転する以上、無くならないと思う。今後、IT化が進み、交通事故が減少していくかもしれないが、車と人が完全に切り離せない限りは無くならないのではないか。

市民は、パトカーや白バイを見かけるだけで注意喚起されるので、その機会をもっと増やしてほしい。

(委員)

車に乗ると思い出すように、巻き返し繰り返し広報する必要があると思う。秋

になれば薄暮に事故が多くなるなど、時期に合った対策を行うとよいと思う。

(委員)

道路を横切ることが多い高齢者対策として、反射材をつけて買い物に行くよう広報しようと思う。

(委員)

本日、反射材の効果について説明を受けたので、私なりに職場で伝えていきたいと思っている。今後も、地域や企業で広めることができる情報を提供してもらいたい。

(委員)

自転車運転者の罰則が強化されたことについて、警察から情報発信をお願いする。

8 警察本部長講評

防府警察署管内で交通死亡事故が2件発生していることから、死亡事故を減少させなければならないという使命感を持っている。また、重傷事故の件数が増加していることについても、対策を強化しなければならないと感じている。

企業に対する情報発信については、今後は防犯や交通事故に関する情報にも力を入れていく。

特殊詐欺については、これだけニュースや防犯対策の広報をしてもアンテナに引っかからないことがある。関心が薄い方に対して、どのように届けるかが今後の課題である。

高校生を巻き込み、その高校生から他の生徒に広めていくやり方は、非常に効果的であると感じた。

9 配付資料

- 警察署協議会資料
- 諮問事項資料